# 新築戸建てを自分流仕上げ

## 完成前、塗装や壁紙貼り自在

### 増税後の需要を喚起

### 東武や相羽建設など

入居者が内装などを自分好みに仕上げる新築戸建て住宅が相次ぎ登場している。東武鉄道が千葉県内で販売を始めた分譲住宅は、入居者が室内の壁紙を貼る。相羽建設（東京都東村山市）の注文住宅は、入居者と内装職人が協力して内装を仕上げる。入居者が日曜大工（DIY）で賃貸住宅を改装する「DIY賃貸」の人気を踏まえ、住宅各社は消費増税後に急減した住宅需要を喚起する狙いだ。

東武アーバンパークライン清水公園駅（千葉県野田市）の周辺には真新しい戸建て住宅が立ち並ぶ。東武鉄道が昨年7月に販売を始めた大規模分譲地「ソライエ清水公園アーバンパークタウン」（500区画）だ。建て売りだが、内装の完成前に引き渡す。入居者が室内の壁紙を貼ったり、ウッドデッキのペンキを塗ったりして、自分好みの自宅に仕上げる。

玄関や寝室の内装は壁紙やけい藻土などから選べる。壁紙なら46種類のデザイン、けい藻土なら18色と、選択肢は豊富だ。腕に自信のない人は作業前に分譲地内の工房で練習も可能だ。

昨年11月に入居した男性は「屋根裏やトイレの収納も自分で作りたい」と、新居の購入を機にDIYにはまっている。東武鉄道の尾形浩・住環境開発部課長は「DIYを横糸にしたコミュニティーを創造したい」と期待する。

ウッドデッキのペンキ塗りに挑戦し、自分好みの自宅に仕上げる（千葉県野田市）

山崎工務店（埼玉県新座市）は子供部屋の壁を入居者に塗ってもらう住宅ブランド「アユームママン」の取り扱いを始めた。「初年度だけで数戸が成約する見通し」という。

相羽建設は東京都八王子市の内装職人組織「ハンディハウスプロジェクト」と連携。同社は耐震・耐火性が求められる基本構造を手掛け、床や台所回りは内装職人が仕上げる。入居者は職人の指導を受けながら全室の壁を塗る仕組みだ。

神奈川県内の不動産大手、リスト（横浜市）は女性社員が主体の商品開発プロジェクトチームを結成。戸建て住宅の内装などに「DIYの手法を導入できないか検討している」。

新築戸建ては住宅メーカーが完成まで請け負うのが一般的だが、「入居者が自分流のカスタマイズを望むなら、あえて『未完成』の状態で引き渡すのも選択肢の一つ」と相羽建設の相羽健太郎社長は話している。

## DIY「楽しい」8割

### 20～30代、中高年より関心

リクルート住まいカンパニー（東京・千代田）が住宅購入を検討している人などを対象に実施した調査によると、20～30歳代の8割近くがDIYのイメージについて「楽しい」と答えた。「おしゃれ」「女性向き」との回答も40歳代以上に比べ多く、若い世代を中心にDIYへの関心が高いことがうかがえる。

国土交通省は昨年3月、借り主負担で修繕や模様替えをする代わりに、退去時の原状回復を不要とする賃貸契約の指針を打ち出した。DIY可能な賃貸住宅に追い風となり、仲間とのDIYをイベント感覚で楽しむ若者も現れている。

住宅情報誌「SUUMO」の池本洋一編集長は「従来の住宅に飽きたらず、DIYを取り入れた新築住宅に目を向ける消費者は若い世代を中心に増えそうだ」と指摘する。

# 日銀、景気判断据え置き

## 生産は下げ止まり傾向

日銀は15日公表した1月の地域経済報告（さくらリポート）で、関東甲信越の景気判断について「基調的に緩やかな回復を続けている」とし、前回（昨年10月）と同じ基に据え置いた。個人消費がもたついているため、判断の引き上げは見送った。

ただ、軟調だった住宅投資や生産が下げ止まりつつあり、景気判断が上向く条件は整いつつあるという。

「緩やかな回復」との表現は6四半期連続。需要などの項目別判断をみると、住宅投資は「駆け込み需要の反動減が続い

# 現代アート「ガチャガチャ」に

## 作家ゆかりの香川に設置

### フィギュア、1回500円

**ケンエレファント**

雑貨メーカーのケンエレファント（東京・千代田）は4月、カプセル玩具「ガチャガチャ」で現代アートの販売を始める。現代美術家の大竹伸朗氏の作品をフィギュア＝写真＝にする。ガチャガチャは大竹氏の作品のある香川県直島町内の5カ所に設置する。

実際に入浴できる美術施設として知られる直島銭湯「I♥湯」や、空き家を使った「はいしゃ」など大竹氏の6作品をフィギュアにする。

ガチャガチャの利用料は1回当たり500円で、現代アートを身近に楽しめるようにする。年間7万個の販売を見込む。

同町は美術鑑賞を楽しむために訪れる外国人観光客が多いため、カプセルに添付する説明書は英語で表記する。カプセルに入れるフィギュアは毎年入れ替える方針で、観光客の再訪を促していく。